opusdei.org

待降節黙想:12月22 日

黙想のテーマ:「マリアの感謝」「神は私たちの願望を助けてくださる」「感謝から寛大さへ」

マリアの感謝

神は私たちの願望を助けてくださる

感謝から寛大さへ

マリアは、エリザベトとザカリアが住んでいるところへ、急いで歩きま

した。到着すると、天使が告げたこ とがすべて真実であることがわかり ます。彼女は固く信じていました が、いとこに子供が生まれるのを目 の当たりにし、喜びでいっぱいにな りました。メシアの現存という彼女 がすでに感じていることが再確認さ れます。彼女の溢れんばかりの喜び は、ヨハネにも伝わっています。母 の胎内にいる洗礼者が、良い知らせ を告げ知らせる時を心待ちにしてい る姿を、想像することができます。 ヨハネは、今この瞬間、彼の声を聞 くことができる唯一の人である母親 に、熱心にそのことを告げます。

マリアもまた、自分の心を満たした 大きな喜びを分かち合いたいと、切 望していました。エリザベトに挨拶 したとき、彼女は従姉妹がすでにす べてを知っていることに、すぐに気 づきました。これまで、知らせを、 心の奥底に秘めていました。イエス の母は歌い出し、賛美の中でイスラ エルの歴史を、彼女が聖書の中で何 度も読んできた言葉と結びつけま す。彼女に対する神の愛は、あまり にも大きく、それをどう表現したら よいのかわかりません。教会の典礼 の中で私たちもしばしばそうするよ うに、聖母は神ご自身から言葉を借 りなければならないのです。マリア はエリザベトの替美の言葉を、多く の驚くべき行いの創造者である神 に、すぐに向けさせます。彼女の全 牛涯は、この目標に向けられるで しょう。人々を神のもとに導くこと です。

「私の魂は主をあがめ、私の霊は救い主である神を喜びたたえます」 (ルカ1・46-47)。マリアは神がどのように行動され、どのように彼女を用いられるかに圧倒されます。 「身分の低い、この主のはしためにも目を留めてくださったからです」 (ルカ1・48)。マリアは神の特別な好意のまなざしを感じ取り、この確 信が彼女に感謝をささげるように導 きます。

マリアは、創造主の目にこれほど自 分が好意的に映るとは、夢にも思り ませんでした。彼女は、神がそのもの り知れない善意において、神の もの以外の理由はなく、 ととせ ります。私たちは驚きを隠せました。 神が、私たち貧しい被造物を想 しておられること することは難しいことです。

しかし、罪の経験のせいで、私たちは、この感謝からやや距離を感じることがあります。なぜなら「神を知覚する能力という賜物は、ある人たちからは差し控えられるかのように思われることを忘れてはならなからです。そして実際、私たちの考え方や行動様式、今日の世界のメンタ

神は、ご自分の娘や息子たち一人ひとりに、その愛の熱烈さをもって手を差し伸べられます。「神は、私たちが善良になるまで待たずに、私たちを愛し、私たちにご自分を無償とお与えになりました。そして聖性とは、この無償の贈り物を守ることにほかなりません」「図。聖なる者とは、このように神に愛されることで

ださるのです。

あり、神が熱心にそれを望んでおら れるからです。それ以外の理由はあ りません。聖ホセマリアはかつて、 私たちを驚かせるような言葉を用い てこう言いました。「信仰と愛に よって、私たちは神を狂わせること ができます。彼は十字架の上で狂 い、聖なる聖体の中で毎日狂い、父 が長子にするように私たちを甘やか すのです」は、私たちも、神の無償 の視線の対象です。マリアは、自分 の喜びがすべての世代に述べ伝えら れることを悟り、この感謝が自己奉 献を生むのです。

感謝の心は、寛大な対応への欲求を 容易に生じさせます。心を感謝で反 応させてこそ、私たちは真の幸福を 得ることができ、愛に愛を返すこと に全力を尽くすことができます。私 たちは、神から与えられたものに比 例するものを神にお返しすることはできません。しかし、この無力さはある意味で私たちを解放してくれます。私たちの自己奉献そのものが、

「私に偉大なことをなさった」方の働きなのです(ルカ1・49)というのも、主は全能であり、私たちを超えるものを私たちから引き出すことができるからです。「その憐れみは代々に限りなく、主を畏れる者に及びます」(ルカ1・50)。アブラハムから今日に至るまで、ごく平凡で、多くの人々から隠されている私たち自身の人生に至るまで。

神はご自身の腕の強さを示すことを好まれ、それによって自分の力だけで幸せになれると考える人々を惑わされます。神はへにするだった者、自分を偉大な存在にすることを許す小さな者たちを、ようの王国で最も高い場所に置くないれました。人間の手で築かれた王座など、神は無に帰されます。

神は、自分が困窮していることを自 覚する人々を良いもので満たしたい と願っておられます。その第一は神 の無条件で無限の愛です。神は私た ちの想像を凌駕し、私たちの最も楽 観的な願望を凌駕することを決意さ れているのです。

しかし悲しいことに、神は、豊かで なくても豊かだと感じる人々を、そ の宝で満たすことはできません。そ して、このことが神の大きな悲しみ を引き起こすのです。なぜなら、神 は、すべての子どもたちをその愛で 満たしたいと願っておられるからで す。しかし、それは神の憐れみの物 語であり、一人ひとりに対する神の 優しい愛情の物語です。それは、世 代から世代へと、私たちにすべての 喜びを与え、私たち自身が愛される 方法を求め続ける神の自由の物語な のです。マリアは〈fiat なれかし〉 で、他の誰にも真似できないことを 成し遂げました。彼女は大喜びで私 たちに道を教え、共に歩んでくださ ることでしょう。

[1] ベネディクト十六世、説教、 2009年12月24日。

[2] 聖トマス・アクィナス『信条について』1. c., 61。

[3] フランシスコ、説教、2019年12 月24日。

[4] 聖ホセマリア、指針、1934年3月 19日、39。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/meditation/mokusou-taikou-22nichi/ (2025/12/13)